【サイダイコンシェルジュ】
SU
SAITAMA UNIVERSITY
知と技と社会の明日をつなぐ大学情報誌
SU News Letter
Saitama University 埼玉大学
Vol.14
February 2018

1 教育地域

インスタで県の農産物を PR！
知事への政策提言で学生が「わっしょい大使」に

経済学部生が埼玉県の上田知事に政策提言したアイデアが採用され、県産農産物の魅力を PR する県公式インスタグラム「埼玉わっしょい」が 12 月 21 日に開設されました。提言を行った同学部今泉飛鳥講師のゼミ生 5 名はこの日、「埼玉わっしょい大使」に任命され、今後、県産農産物を食べられる飲食店の情報や料理などの写真を投稿し、情報を発信していきます。

11 月 8 日に開催された、本学の学生が上田知事に政策提言を行う「知事と学生の意見交換会」で、5 名が発表した「インスタグラム × 若者 × 県産農林産物」のアイデアが今回の取り組みとして採用。大学生の 8 割が県産農林産物に「興味がない」とするアンケートを背景に、SNS が若者の消費行動を促しているとして、インスタグラムを使った PR が効果的だと訴えました。

2010 年に始まった意見交換会は、若者の感性を県政に活かすとともに、大学を生きた学習の場とすることを目的に今年で 8 回目。

2

1

今回は、経済学部と工学部から 5 つのゼミが参加し、公共交通の利用促進や子育て支援、都市公園の再整備など県が抱える課題をゼミごとに 1 つ選び、提案しました。これまでに提案されたアイデアの中で、公園の散歩コースへの企業協賛による消費カロリー表示機設置や、大学生によるフリーペーパー発行などが実現しています。

3

1 早速投稿したインスタグラムの写真を上田知事に見せる学生
2 知事に政策提言する学生たち
3 学生が運営する県公式インスタグラム「埼玉わっしょい」

2 教育地域

浦和地域の魅力づくりを学生が提案
埼玉大学 × アトレ浦和の連携授業

地域が抱える課題解決や学生のキャリア形成などを目的に、アトレ浦和との連携講義「課題解決型インターンシップ（全 8 回）」を 4 学期制の第 1 と第 3 タームにそれぞれ開講しました。

このインターンシップは、「浦和地域の魅力づくり」をテーマに、学生自らが企画した地域の課題について取材やフィールドワークなどを実施。その成果を記事にまとめ、アトレ浦和の情報誌 ULaLa に掲載するもので、地元学生が浦和の魅力を再発見し地域について考えるきっかけにしてもらおうと単位制の授業として今年度より開講しました。

受講者は教養学部や工学部などの 1 ～ 4 年生で、最終講義にはアトレ関係者の前で成果発表を行いました。講義後、学生は「地域について真剣に考え、多くのことを学んだ」「さまざまなことを経験でき、充実した時間だった」と話していました。成果記事が掲載された ULaLa は、同社ウェブサイトのほか、店舗内で配布されます。同様の連携講義は来年度も開講する予定です。

1

2

1 学生の提案が掲載されたアトレ浦和の情報誌 ULaLa
2 プレゼンテーションする学生たち

3 同窓生 ホームカミングデーで同窓生 500 名が交流
ノーベル賞受賞の梶田さんが登壇

母校との絆を深めていただくことを目的に 10 月 14 日、ホームカミングデーを開催し、卒業生・元教職員など 500 名を超える方が本学を訪れました。7 回目となる今回は、1981 年に理学部物理学科を卒業し、2015 年ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんをお迎えし、「神岡の地下から探る宇宙」をテーマに講演会が行われ、その功績に参加者から大きな拍手が送られました。このほか、学術研究や課外活動で優れた学生を表彰する学生表彰式や、名誉教授の講演、サークルによるパフォーマンス、懇談会などが行われ、和やかな雰囲気のなか、盛況のうちに閉会しました。

▲ 講演する梶田隆章さん

4 教育 企業の課題にビジネスアイデアを競う
「キャリア・インカレ」準決勝に進出も惜敗

大日本印刷や日本航空など 5 企業が出題するテーマに対し大学生がアイデアを競う「キャリア・インカレ」の準決勝大会が 12 月 17 日、主催のマイナビ本社で開催されました。本学からは、大学院理工学研究科の学生 3 名が出場。全国 204 チームから予選通過した 8 チームに選ばれ、決勝戦出場を目指し競いました。当日は、大日本印刷（DNP）の出題テーマ「DNP を使い倒して『2021 年のあたりまえ』をつくりだせ！」に対し、訪日外国人観光客が情報収集に苦慮する現状をビジネスチャンスとして捉え、新たな付加価値をつけた情報発信ツールの開発を提案。惜しくも決勝進出は逃しましたが、プレゼンを終えた学生は「業界・企業研究をしながら初めてビジネスを考える良い機会となった」と笑顔で振り返りました。

▲ ビジネスアイデアを提案する学生ら

5 教育 学生表彰式を実施
顕著な学修成果やスポーツ活動を称えて

10 月 14 日、平成 29 年度第 1 回学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。受賞式は、同日行われたホームカミングデーのなかで開催。今回は、学術研究において成果を挙げた学生 6 名、課外活動において成果を挙げた学生 11 名および 8 団体に対して、山口宏樹学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。

▲ 山口学長（中央）を囲んで記念撮影

6 教育 秋期入学式を挙行
20 ヶ国を超える地域から 63 名の留学生をお迎え

平成 29 年度秋期入学式が 10 月 5 日に挙行され、大学院修士課程 42 名・博士課程 28 名の新入生が入学しました。このたびは、新入生 70 名のうち、海外の 20 ヶ国を越える様々な地域から 63 名の留学生をお迎えしました。山口宏樹学長は、入学生の新たなスタートを祝うとともに、本学卒業生で 2015 年ノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章さんの活躍を紹介。また梶田さんが在学生に向けたメッセージを引き合いに、「自身が研究する目的や意味を考え続け、これから訪れる大切な出会いに準備をしてください。みなさんの素晴らしい研究活動に期待しています」と激励しました。

◀ 式辞を述べる山口学長

7 研究 ゲリラ豪雨や竜巻を高精度で予測
世界初の実用型「気象レーダ」を埼玉大学に設置

9 月より本学構内で建設が進められていた世界初の実用型「マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダ」が完成し、12 月 1 日に報道陣に公開されました。この気象レーダは、内閣府が進める戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）課題「レジリエントな防災・減災機能の強化」の施策として、情報通信研究機構を始めとする研究グループが開発。本学からは理工学研究科の長田昌彦教授が参画しています。今後の展望として、この気象レーダの高精度な予測を用いて、東京五輪・パラリンピックでの効率的な競技運営、自治体での水防活動、さらに住民の洗濯物の取込みなど日常生活での活用も目指します。

◀工学部建設工学科棟屋上に設置された気象レーダ

8 研究 銀河団も太陽も化学組成は同じだった!
JAXA ひとみ衛星との共同研究で解明へ

宇宙航空研究開発機構（JAXA）を中心に開発された X 線天文衛星 ASTRO-H「ひとみ」搭載の軟 X 線分光検出器による観測結果から、X 線帯域で最大級に明るい銀河団「ペルセウス座銀河団」中心部において、鉄やニッケルなどの元素の組成比が太陽系近傍と同じであることが明らかになりました。この研究には、本学から理工学研究科戦略的研究部門X線・光赤外線宇宙物理領域の田代信教授ら研究グループが参画しています。当研究グループは、X 線宇宙望遠鏡を用いて、宇宙の活動的な姿をとらえる宇宙物理学の研究を展開。ミッション提案時から 10 年以上にわたり、NASA などと共同で、X 線天文衛星「ひとみ」に搭載した軟 X 線分光器の開発や、機器の解析ソフトウェアの構築などを行いました。

X 線天文衛星 ASTRO-H「ひとみ」(c) JAXA ▶

9 研究 演者と観客が共創する芸術の空間づくりへ
アイドル応援システムの実演と実験

本学を中心とした研究グループの共同研究「観客と共創する芸術 − 光・音・身体の共振の社会学的・芸術学的・工学的研究」が、日本学術振興会の「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」に採択されました。光と音と身体の共振で生まれる演者と観客が共創する新しい芸術空間づくりや、人々の「共同的愉悦の価値」を文理融合の視点から研究しようという試み。

10 月 28 日開催のシンポジウム「アイドルと観客が共創する空間」では、理工学研究科の小林貴訓准教授が開発した、ペンライトを使った双方向アイドル応援システムの実演を行うなど、新しい人文・社会科学領域の開拓に向けて研究を進めています。

▲ アイドル応援システムの実演と実験を行う様子
10 月 28 日開催のシンポジウム
「アイドルと観客が共創する空間」にて

10 研究 5名の教員に学長奨励賞を授与
研究活動に顕著な功績

本学において12月5日、平成29年度学長表彰の表彰式を開催しました。学長表彰は職務に顕著な功績や、社会的な功績があった教職員を表彰するもので、このたびの表彰式では、教育・研究活動に顕著な功績があった5名の教員に「学長奨励賞（教育・研究）」が授与されました。山口宏樹学長はあいさつで「皆さんの今後益々のご活躍が大学の発展に繋がっていきます」と激励。続いて、受賞者を代表してあいさつした理工学研究科の斎藤雅一教授は、研究支援者への謝辞を述べ「この受賞を機により一層研究活動に励みたい」と決意を新たにしました。

▲ 前列左から、人文社会科学研究科の李潔教授、理工学研究科の斎藤雅一教授、山口学長、理工学研究科の吉川洋史准教授、研究機構研究企画推進室の豊田正嗣准教授、同推進室のRichard Neal Bez准教授

11 国際 アフリカ大陸初となる交流協定を締結
山口学長がモハメド5世大学を訪問

山口宏樹学長と教養学部の市橋秀夫学部長は10月31日から3日間、モロッコのラバトを訪問し、モハメド5世大学との大学間交流協定書に署名しました。アフリカ大陸の大学と協定を結ぶのは、今回が初。モハメド5世大学のAmzazi学長らと今後の具体的な交流について意見交換を行い、その後ラバト国際大学での意見交換やモロッコ高等教育省長官と会談しました。さらに国際協力機構（JICA）モロッコ事務所を訪問し、モハメド5世大学との実質的な交流を行う上でのJICAのスキームの適用可能性などについて意見交換を行いました。

▲ モハメド5世大学のAmzazi学長（左）と山口学長の会談

12 国際 「自ら発信する大切さ痛感」
ノーベル賞関連イベント参加し帰国報告

12月に開催されたノーベル賞授賞式に合わせ、スウェーデンで行われたストックホルム国際青年科学セミナーに参加した大学院理工学研究科博士前期課程2年の大塚美緒子さんが1月24日、本学で帰国報告会を開きました。セミナーには世界中の18～24歳の若手研究者25名が参加。大塚さんは日本から派遣する2名のうちの1名に選ばれました。地元高校生への研究発表や参加者間で議論を交わし、大塚さんは、他国の参加者の能動的な姿勢と発信力に感銘を受け、「自ら発信することの大切さを痛感した。教育を受ける機会を大切にすると同時に、普段から発信することも意識したい」と決意を語りました。

▲ スウェーデンでの体験を発表する大学院生の大塚さん

13 国際 JICA研修でモンゴル教育関係者を受入れ
カリキュラム・マネジメント推進に協力

国際協力機構（JICA）の研修で、10月30日から4週間来日していたモンゴル国の数学・理科教育関係者18名が、本学や近隣の小・中学校を訪れ、カリキュラム・マネジメントに関する講義を受講するほか、授業参観や研究協議などを実施しました。研修は、JICAの研修員受入事業である国別研修「カリキュラム・マネジメント・サイクル運営強化研修」の一環として実施され、本学教員が技術協力などを行っています。本研修では、各研修員の所属機関におけるカリキュラム・マネジメント・サイクルの実現と普及を目指して、「学校グランドデザイン」のほか、算数・数学と理科の年間指導計画などを成果品として作成しました。

▲ 本学附属中学校の理科授業参観

14 国際 グローバルキャンパスの集いを開催
270名が参加し留学生と交流

留学生と日本人学生との交流や、本学が実施する国際教育プログラムを紹介することを目的に12月13日、「埼玉大学グローバルキャンパスの集い」を開催しました。留学生や日本人学生、教職員など約270名が参加。山口宏樹学長と全学留学生会会長の挨拶の後、本学の国際教育プログラムに参加している学生が、各プログラムの紹介と海外での経験を発表しました。後半には、留学生による母国の民族衣装やダンス、歌に続いて、学生サークルによる迫力ある和太鼓やけん玉の演技が披露されました。演技終了後には、感想を学生同士で歓談するなど、有意義な交流が図られました。

▲ ダンスを披露するミャンマーの留学生たち

15 地域 「カルソニックカンセイ奨学金」を設立
理系学生を対象とした人材育成の支援

自動車部品大手のカルソニックカンセイ株式会社（さいたま市北区）から支援を受け、理系学生を対象とした「カルソニックカンセイ奨学金」を設立しました。理学部と工学部、大学院理工学研究科博士前期課程の学生のうち4名を選び、原則として卒業・修了まで継続して、1名当たり年間30万円を給付します。同社で10月18日、柿沢誠一副社長と山口宏樹学長が出席し、設立申請書受領、感謝状贈呈式を開催。山口学長は「自動車産業が変革する中、どのような人材を育成すべきか広い意味で連携し対応していきたい」と述べ、柿沢副社長は、「この奨学金により、幅広い分野で活躍する人材を育てていただきたい」と期待を寄せました。

◀ 山口学長（左）から感謝状を受け取る柿沢副社長

16 地域 埼京線沿線の地域活性化に貢献
JR東日本大宮支社との連携事業

JR東日本大宮支社と本学は2015年8月に、埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成などを目的に連携協定を締結しています。継続的な取り組みとして、2015年から、地域を盛り上げようと同支社とコラボしたポスターをJR大宮駅のデジタルサイネージや埼京線各駅で掲示しています。また、学生が埼京線沿線のまちづくりを提案する「課題解決型インターンシップ」も2016年から継続的に開講。更に新たな連携として、2017年9月には、学生が考案した県産食材を使ったお弁当販売、11月には沿線保育園で、親子を対象とした食育ワークショップを開き、学生が食の大切さを伝える紙人形劇や、県産野菜を使った食育体験イベントに取り組むなど、年々連携を深めています。

▲ 食育イベントで県産食材を使い餃子をつくる親子

17 地域 「サイバー学生ボランティア」への就任
埼玉県警察のネット犯罪抑止施策に協力

インターネット上の犯罪被害防止に向けて本学学生 11 名が 12 月 1 日、埼玉県警察より「サイバー学生ボランティア」の委嘱を受けました。早速、研修会も行われ県警サイバー犯罪対策課の指導を受けながらネットの有害情報を探すサイバーパトロールを始めました。県警によると、昨年県警が受けたネット関連の相談は 6,834 件で、5 年間でおよそ 2 倍になるなど増加傾向にあります。この日県警本部で委嘱式が行われ、代表で活動宣言をした工学部 4 年の福島史康さんは「SNS では監視の目が行き届かない所もある。学生の目線で貢献したい」と意気込みを話しました。

◀ 指導を受けながらサイバーパトロールをする学生

18 地域 さいたまクリテリウムの魅力 PR に協力
市の「さいクリ広報部」で学生が活躍

世界最高峰の自転車ロードレースの名を冠した国際自転車レース「2017 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」が 11 月 4 日、さいたま市で開催されました。大会の魅力を SNS を利用して発信する「さいクリ広報部」に本学学生 3 名が参加し、市内サイクリングイベントなどさまざまな活動を通して PR しました。大会当日もオフィシャルカメラマンとして、猛スピードで走る選手たちを撮影し、SNS で発信。部員の工学部 2 年土井さんは「普段なら味わえない空気に緊張しましたが、堂々と活動することが出来ました」と参加できた喜びを語りました。

▲ 沿道から選手を撮影する学生

19 地域 先端ラボ主導による新たな産学官金連携
大学改革シンポで取り組み事例発表

国立大学協会と共催で 12 月 20 日、「大学改革シンポジウム」を開催しました。本学の先端産業国際ラボラトリーが取り組む人材育成や事業化を紹介するほか、産学官金の視点で埼玉地域からイノベーションを起こし世界に発信するという国立大学の新たな形の地域貢献について理解を深めることを目的としており、産業界や金融機関などから 145 名が参加しました。埼玉県産業技術総合センターの中村雅範センター長による特別講演にはじまり、金融・介護・医療などの分野から 4 企業が講演。各業界の動向や先端ラボとの連携事例などが紹介されました。

◀ 当日の様子

お知らせ 「つなげよう未来へ」創立 70 周年記念事業 キャッチフレーズ&ロゴ決定！

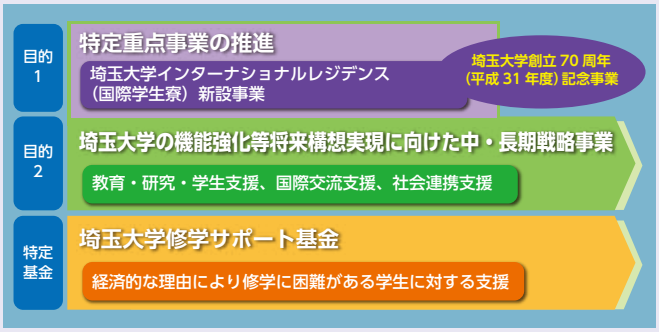
2019 年に迎える創立 70 周年に向けて、キャッチフレーズを学内から公募し、教養学部 4 年の上村真由さんが考案した「つなげよう未来へ」に決定しました。上村さんは「あらゆる立場の人をつなぐ『架け橋』であることが埼玉大学の魅力。70 年間の人と人の心を『つなぐ』役割をこれからも続けてほしい」と願いを込めています。ロゴマークは、教育学部の高須賀昌志教授が制作。70 の 0 を 3 重にすることで時の重なりを表現し、埼玉大学シンボルマークと同じ“横はね”のラインを連なるように一体感のあるデザインに。今後、記念事業を実施するにあたり、このキャッチフレーズとロゴを使って、学内外に PR していきます。

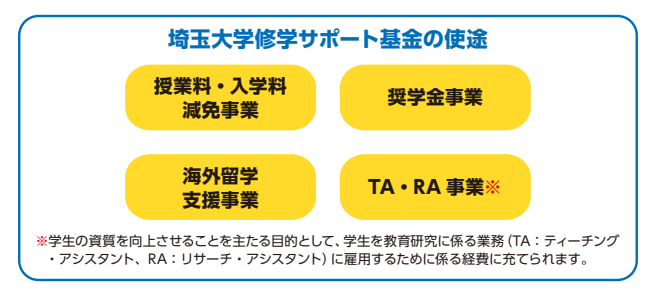
Saitama University　70th つなげよう未来へ

埼玉大学基金室より 埼玉大学修学サポート基金のご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。今回は、埼玉大学修学サポート基金のご紹介をさせていただきます。埼玉大学修学サポート基金は、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的として、埼玉大学基金内に置かれる特定基金として平成 28 年末に設立いたしました。この埼玉大学修学サポート基金に個人の方からいただいた寄附金については、所得税の寄附金控除を申告される際に、所得控除か税額控除のいずれかを選択可能です。税額控除は多くの場合において、減税効果が高いことが特徴です。(目的 1、目的 2、或いは「目的区分を問わない」として、埼玉大学基金にご寄附をいただいた場合は、所得控除のみとなりますので、ご注意ください。)

詳細は下記ホームページから「埼玉大学基金の目的」及び「税制上の優遇措置」をご覧いただけますようお願いいたします。
今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。





◆埼玉大学基金のご報告

平成 29 年 12 月末の状況 **360,566,734 円**

うち古本募金「きしゃぽん」によるご寄附 **352,518 円**

埼玉大学基金室（広報渉外室内） ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🖳http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
古本募金「きしゃぽん」についてはホームページの「お申し込み方法」（http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/）から「3. 古本募金」をご参照ください。

サイダイコンシェルジュ SU NewsLetter Vol.14 2018 年 2 月発行
編集発行／埼玉大学広報渉外室 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 TEL：048(858)3932 Fax：048(858)9057 E-mail：koho@gr.saitama-u.ac.jp
この冊子に関するご意見やご質問は、埼玉大学広報渉外室までお寄せください。
※掲載の記事は本学ホームページから抜粋してご紹介しています。詳しい内容はホームページをご覧ください。（http://www.saitama-u.ac.jp）